

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果から

1. 全国学力・学習状況調査の結果について

<国語の調査結果にみられる特徴と現状分析>

○他の領域と比べると、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問いの正答率が高かった。

▲「書くこと」、「読むこと」に関する問いの正答率が低い。特に、目的や意図に応じて、文章からわかることをまとめて書く力に課題がある。

<算数の調査結果にみられる特徴と現状分析>

○他の領域と比べると、「図形」と「数量関係」に関する問いの正答率が高い。

▲「数と計算」、「量と測定」に関する文章問題の正答率が低い。特に計算の仕方について説明する力に課題がある。

<児童質問紙>

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている子は国語、算数ともに正答率が高い傾向が見られる。
- ・家の人と学校での出来事について話をよくしている子は、国語の正答率が高い。
- ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」という問いに96%の子が「当てはまる」と答えている。
- ・「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」という問いに94%の子が「当てはまる」と答えている。
- ・「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」という問いに「当てはまる」と答えた子は全体の70%だった。

2. 成果と課題に対する今後の取組について

- ・国語の「話すこと・聞くこと」に関しては、朝や帰りの会、授業における意図的な発表の場の設定、話す・聞く態度への指導の積み重ねの成果と考えられる。今後も続けていく。
- ・国語の「書くこと」、「読むこと」に関しては、学習のまとめを一人一人が自分の言葉で書くことにより、確実に情報を関係付けながら自分の考えを持たせたい。一文を書いたら、読み直したり書き直したりする学習を繰り返す行い、自分の書いた文章を振り返る習慣を付けさせたい。国語科のみならず、他教科においても実践していき、ノートやワークシートの添削を通して、教員が子どもに力が付いたかを見取るようにする。
- ・算数に関して、学習指導を計算の処理方法にとどめず、場面の様子を式に表したり、場面に即した式の読みとりをしたりする等、式の意味について考える場を設定していく。
- ・児童質問紙の結果から、日々の生活習慣が発展した学習の習得や意欲向上に関係していることがわかる。今後も保護者の方のご協力を得て、規則正しく健康な生活習慣を子ども達に心がけさせたい。
- ・保護者の方や地域の方のご協力をいただきながら、個人の成長やがんばりを認め、励ましの声かけを通して、今後も最後までやり遂げた経験を見聞にたくさん持たせていきたい。
- ・コンピュータやタブレット等のICT機器を見聞が直接体験できるような学習を、現在よりも多く展開していく。